労働時間の計測について

１　時間の定義

* 本事業に係る労働時間とは、それぞれの作業に当たって、人力による従事かつ拘束される時間とする。

２　労働時間の計測方法

1. 搾乳方式

　　・計測日数・回数は、３日間の夕・朝６回分（又は３回搾乳の９回分）

（搾乳ロボットはこれと異なる回数となることも考えられる。）

　　・１回あたりの搾乳牛頭数、従業員数

　　・農林水産省等資料によれば、乳牛の出し入れ、搾乳前の搾乳設備及び器具の点検・準備、プレディップ、前搾り、乳頭の清拭・カップ装着・ポストディップ、搾乳・搾乳後のろ過・冷却（バルククーラーヘの投入）などの作業、搾乳関係器具の消毒・殺菌などの後片付け作業、販売のため最寄りの集乳所までの運搬終了までの人力が拘束される時間。

　　・この他、搾乳ロボットについては、搾乳状況の確認、手動装着に要した時間、併用する搾乳設備がある場合はそこでの搾乳時間も含。

　　・基本的には、従業員が、牛乳処理室やパーラーで搾乳準備を始めた時点から搾乳が終了し、後片付けをして同室から出た時点までの時間を計測すること。

なお、経営体によって施設内容が異なることから、会議の承認の下で、経営体に合わせた計測を行うことも可。

　　一人当たり・搾乳牛１頭当たり搾乳時間（時間/人・頭・年）

　＝（３日間の延べ計測時間／３日間の搾乳牛述べ頭数）×２（又は３）回

×３６５日÷１回当たり従業員数

1. 搾乳牛給餌方式

　　・計測日数は、３日分

　　・１回あたりの搾乳牛（又は経産牛）頭数、従業員数

　　・人力が拘束されるストッカーへの飼料の積み込み、ミキサーへの投入１日○日、サイレージ・配合の給餌の回数１日○回・餌寄せの回数１日○回

　　・その１回当たり配合等調理・調製及び給餌・餌寄せの時間開始時間～その終了時間

　　一人当たり・搾乳牛１頭当たり給餌時間（時間/人・頭・年）

　　＝３日分の延べ時間／３日間の延べ搾乳牛（又は経産牛）頭数×３６５日÷１回当たり従業員数

（３）子牛（ほ乳）給餌方式

ア　人力によるほ乳方式

・直近３頭の離乳までのほ乳日数

・直近３日間のほ乳頭数、人工ほ乳回数１日○回、１回当たり時間○分

・１回当たり従業員数

　　　一人当たり・搾乳牛１頭当たりほ乳時間（時間/人・頭・年）

　　　＝（３日間の延べ時間／３日間の延べほ乳頭数）×ほ乳日数×１２/１４÷１回当たり従業員数

イ　ほ乳ロボット方式

特に計測しない

（４）生産管理方式

　　ア　人力による観察方式

【発情観察】３日間の担当従業員数

発情は夕方以降から早朝にかけて発現することも多いものの、観察は単独作業として行うことが少なく、搾乳前後の追込み時や飼料給与・餌寄せ時に観察が行われるので、これらの申告時間から推定算出

一人当たり・搾乳牛１頭当たり観察時間

＝　(人力による給餌方式＋人力による餌寄せ)計測時間×１４/４３

÷１回当たり従業員数

　　　　注：(人力による給餌方式＋人力による餌寄せ)計測時間は、上記（２）の調査内容を準用

【分娩監視】直近３頭の例を調査

監視開始月日（分べん予定日○日前）～分べん月日

分べんの見回り１日○回１回当たり○分

担当する従業員数

　　　　一人当たり・搾乳牛１頭当たり監視時間

　　　　=（監視回数×１回当たり時間×監視日数）／分べん頭数

÷１回当たり従業員数

　　イ　発情発見装置の活用

【牛歩　他】３日間

　　　　　一人当たり・搾乳牛１頭当たり観察時間

=（パソコンのお知らせ画面等の３日間の延べ確認回数

×１回の確認時間）／３日×（１受胎当たり受精回数２．３回×発情発現可能３日間／分べん間隔４３３日）

÷１回当たり従業員数

　　ウ　分娩監視装置の活用

【牛温恵】３日分（体温センサへ装着は分べん予定日の約７日前）

　　　　　一人当たり・搾乳牛１頭当たり監視時間

　　　　　＝（３日間のグラフ・データ確認回数×１回の確認時間／３日間／分べん対象頭数）×７日間×365日/433日÷１回当たり従業員数

【カメラ】３日分

カメラ確認１日○回１回当たり○分

搾乳牛１頭当たり監視時間

　　　　　＝（カメラ３日間の延べ確認回数×１回の確認時間／３日間／分べん対象頭数）×７日間×365日/433日÷１回当たり従業員数